

# 各地に残すべき地形・地質 男鹿半島・大潟ジオパーク



## 過去 7,000 万年間の大地のドラマが凝縮

秋田県男鹿市教育委員会 竹内 弘和

### ■はじめに

皆さんは「ジオパーク」という言葉をご存知ですか。ジオパークとはジオ（大地）とパーク（公園）を組み合わせた造語です。一言でいえば、大地の成り立ちが理解できる地質遺産を含む自然公園のことです。この「大地」には地質だけでなく環境・産業・歴史・文化・伝説など、大地の上に成り立つ自然や人間の営みが含まれます。貴重な地質遺産があり、それらを地域で守り、楽しみ、学び、活かしている地域がジオパークとして認定されるのです。

ジオパークにはユネスコ（国連教育科学文化機関）が支援する世界ジオパークと国内版の日本ジオパークがあります。男鹿半島・大潟地域は、2011年9月に日本ジオパークに認定されました。現在、国内にジオパークは20地域あり、うち糸魚川（新潟県）など5地域が世界ジオパークに認定されています。

### ■位置と地理的背景

男鹿半島・大潟ジオパークは秋田県臨海部のほぼ中央、北緯40度をまたぐ位置にあり、日本海に突き出た男鹿半島の大部分（男鹿市）と八郎潟残存湖に囲まれた干拓地（大潟村）を範囲とします。



図1 男鹿半島・大潟ジオパーク位置図 / 写真1 男鹿半島・大潟ジオパーク衛星写真（榎地球科学研究所）

男鹿半島は秋田県で唯一の半島です。米代川と雄物川の運搬土砂の堆積によってで

きた砂州で本州と結ばれる陸繋島で、半島西部は山岳地形、その周囲は海岸段丘となっています。東部に位置する八郎潟干拓地はかつて日本最大の潟湖であった八郎潟を干拓してできた人工の大地であり、ここには海拔0m以下の広大な沃地が広がっています。

### ■男鹿半島・大潟ジオパークの特徴

①グリーンタフをはじめとした日本海沿岸地帯の標準層序がそろっており、日本海の誕生を含む過去7,000万年間の大地のドラマに恵まれている、②第四紀における地殻変動（マグマ活動、地盤変動）が大きく、災害を繰り返し受けてきている。そのことを多くの慰霊碑・記念碑の形で次世代への教訓として伝えている、③人間による大地創造と維持管理に、大地と人との関わりあいをつぶさに観察できる。また大潟村の通勤型農業は東日本大震災の復興モデルとして注目されている、などの特徴があります。

また、地域内には、男鹿国定公園、国指定大潟草原鳥獣保護区などに代表される豊かな自然環境があり、多様な生態系がみられます。

さらに、疲れた身体を癒す温泉と水量豊かな湧水群、男鹿のナマハゲに代表される文化財や八郎太郎伝説、新鮮な魚介類や米、野菜、果物など、豊富な地域資源があり、大地と人間との深い関わりを色々な角度から実感できる地域となっています。



写真2 重要無形民俗文化財「男鹿のナマハゲ」

## ■代表的なジオサイト

### ①館山崎—用語「グリーンタフ」発祥の地—



写真3 雨の日のグリーンタフ

2,000 万年前頃の火山活動による膨大な量の火山灰や火山礫が積み重なってできた岩石のうち、熱水により変質した部分が緑色になりました。雨上がりには緑色がより一層鮮やかなターコイズブルーになり目を奪われます。

### ②安田海岸—地層が語る大地の変遷—



写真4 安田海岸の露頭

50 万年前頃から 8 万年前頃までの地層がほぼ切れ目なく現れており、貝をはじめ有孔虫・甲殻類・ウニ類・魚類などの動物や、石炭になりかけた植物化石（亜炭層）、泥層や砂層や礫層、そして 4 枚の広域火山灰地層など、まさに地層の博物館です。地層を堆積しながら海水面が大規模に昇降したことも重要な見どころです。

### ③寒風山—火山の箱庭—



写真5 第一火口の溶岩じわと溶岩堤防（板場の台より）

2 万年前頃に活動をはじめた火山で、道路脇から溶岩の流れた様子が観察できます。第一火口の南西端には巨石が積み上げられたような溶岩岩尖（スパイン）が観察でき、地元では「鬼の隠れ里」と呼ばれています。

### ④大潟村—人工の大地—



写真6 大潟村全景



写真7 防潮堤防

この村の大規模農地はかつての八郎潟の湖底であり、干拓工事によって農地に生まれ変わりました。人工大地を維持するため、総延長 52km におよぶ干拓堤防、防潮水門、3 カ所の排水機場、農業用水サイフォンなどが設置されています。

男鹿半島・大潟ジオパークは約 30 km 四方の比較的コンパクトなジオパークです。地質構造は、大局的には東傾斜の単斜構造で単純なため、西から東へと移動すればおのずと 7,000 万年間にわたる大地の生い立ちをたどることができます。週末のドライブがタイムトラベルに変わりますよ。